

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁 代

副委員長

立石 雅 子

阿部 晶 子

今井 智 子

石坂 郁 代

内田 信 也

宇野 彰 準

勝木 紀 子

倉内 紀 子

倉智 雅 子

佐藤 睦 子

椎名 英 貴

城間 将 江

鈴木 恵 子

中村 光 一

長谷川 賢 一

春原 則 子

深浦 順 一

藤原 百 合

水田 秀 子

矢守 麻 奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

COVID-19 の感染はいまだ収束せず、各分野ではいかにして感染防御と諸活動を両立させるかについて模索が続いている。これは言語聴覚分野においても同様であり、臨床、研究、教育の量と質を保つための試みが各現場で行われている。

COVID-19 の言語聴覚臨床への影響は非常に大きい。これは、コロナ・ウイルスが侵入し増殖する主要器官が呼吸・発声・発語器官であり、言語聴覚士はこれらの器官の機能に対応する専門職であることによる。対象者と会話することなく、また発声発語/摂食嚥下器官の形態と動態を調べることなく、言語聴覚療法を提供することは困難である。この意味において、言語聴覚士は医療福祉職の中でもリスクが高い現場で働いているといえる。対象者に感染させない、自分も感染しないための厳しい自己管理と協力が求められる環境において、最善の言語聴覚療法を提供することに努める人々の緊張と苦労は測り知れない。

このような状況を受けて、日本言語聴覚士協会は5月11日～21日に、「COVID-19 感染症に関連する緊急調査～言語聴覚療法対象者と言語聴覚士・スタッフを守るために」を実施した。その結果、速報が協会ホームページに掲載されているが、すべての障害領域がCOVID-19により何らかの影響を受けていることがわかる。

COVID-19 の影響は、毎年、開催されている日本言語聴覚学会にも及び、本年は本誌での誌上開催となった。このような形態での開催は、東日本大震災が発生した2011年の第12回学会(佐藤睦子会長)以来、2度目である。今回の第21回日本言語聴覚学会は、2020年6月19日・20日の2日間、茨城県つくば市のつくば国際会議場(会長：草野義尊先生)で現地開催される予定であった。大会テーマは、「未来につながる言語聴覚療法に向けて：学びの芽生えと知の開花」であり、充実した発表・討議が予定されていた。演題発表を予定されていた方々および入念に準備をされていた草野義尊会長をはじめ茨城県言語聴覚士会の皆様の心情を察するに余りあるものがあるが、誌上発表を通して学問の進展に寄与することは可能である。読者におかれては、本誌で演題内容を確認され、質疑やコメントを演者にお寄せ願いたい。

今号には、学会抄録のほか、2編の原著論文(構音器官運動、養成教育)、1編の調査報告(認知症)、1編の短報(摂食嚥下障害)、1編のレポート「現場最前線」(覚醒下手術)が掲載されているので、併せて一読願いたい。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第17巻 第3号) 2020年9月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価：本体2,000円＋税

2020年間購読料：本体7,500円＋税(4冊、送料発売会社負担)

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2020, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)